

# 減災ニュース

和田三丁目東町会

2012, 07 減災プロジェクトチーム発信情報

## 「和田三丁目東町会の地域危険度」について

東京都は都内に所在する 5,073 の町丁目（都内の町会数とほぼ同数）について、各町丁目別の震災危険度を再調査(5 回目)して、結果を本年 6 月に発表しました。

建物倒壊危険度、火災危険度、避難危険度の三危険要素を 1～5 までのランクで相対的に評価して、これらの危険度の和から総合危険度についても 5 段階ランク付けをしています。さらに三危険度要素の程度の組み合わせから危険度特性評価を判定しています。

建物倒壊危険度：地域の地盤と建物の種類・建築年次・階数等から耐震性能を評価したもの

火災危険度：地震による出火の起こりやすさとそれによる延焼の危険性を判定したもの

避難危険度：避難場所に到達するまでに要する時間と避難する人の数を組み合わせて評価したもの

危険度ランク：1 が危険度が低い。5 が危険度が高い

順位表示：5,073 町丁目のうち何番目かを表し、上位ほど危険度高い

これらの評価から我々の町会地域「和田三丁目東町会」は以下のような評価になっています。

建物倒壊危険度 順位 2,403 ランク 2

火災危険度 順位 393 ランク 3

避難危険度 順位 4,388 ランク 1

総合危険度 順位 2,382 ランク 2

危険度特性 AAA 相対的に危険度の低い町

初期消火の実践を



この評価から判ることは、地域内には耐震補強の必要な古い木造家屋が沢山残っていて、出火する危険や延焼の危険は高い地域であるが、至近に蚕糸の森防災公園があり、杉十小や高南中の震災救援所も近いので、避難環境は最上位クラスで恵まれているということです。

地震に見舞われたら、先ず出火の防止に全力を尽くし、もし出火してしまったら近隣で協力して初期消火を実践して、延焼を食い止めることが可能な「初期消火協力体制」が大事になります。この体制が備わっていて、かつ日常的に消火機器の操作訓練が行われていれば、大震災でも命の助かる確率は相当高いと云えるでしょう。

和田三丁目東町会の取り組むべき具体的な最重要課題です。

参考までに隣接地域の評価も載せておきます。

地域	建物危険度	火災危険度	避難危険度	総合危険度	危険特性
和田一丁目	1,167 3	350 4	1,576 2	699 3	ABA
和田二丁目	2,957 1	996 3	4,192 1	2,809 1	AAA
高円寺南一丁目	2,162 2	192 4	2,881 1	1,536 2	ABA
梅里一丁目	2,748 2	740 3	910 3	1,192 2	AAA

因みに杉並区で元も総合危険度順位が高いのは高円寺南 4 丁目(183 位)、高円寺北 3 丁目(374 位)等ですが、和田地区と比較して格差の最大要因となっているのは、避難場所の不便さと避難人数の多さと考えられます。

火災の危険度も和田地区より高いですが、それほどの大差はないと思います。

逆に最も危険度が低いと評価された地域は大宮 2 丁目(3,880 位)、上井草 3 丁目(4,047 位)、久我山 2 丁目(3,979 位)等で、家屋の密集度が低くかつ避難場所が至近に存在するところになっています。以上